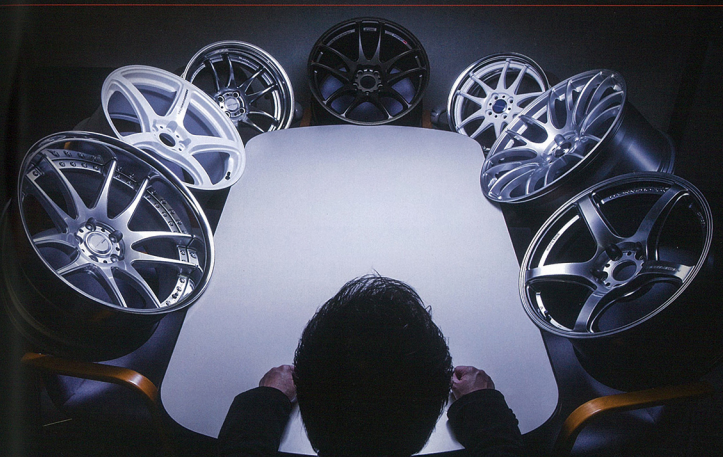
# RIM SUMMIT 2018

スタンスカスタムの根源であるホイール選び。最旬のスタンスを仕上げるならやっぱり知っておきたいのが最新のホイール事情！　ここではシーンで重要な2社の新作をチョイスしたぞ。1つ目は装着率ナンバーワンホイール"ワークエモーション"からだ！

## WORK / WORK EMOTION SERIES

source：ワーク西日本 06-6746-2859、ワーク中日本 052-777-4511、ワーク東日本 048-688-7555　https://www.work-wheels.co.jp/
photo：Kenji Isebaba



## 新たに追加されたワークエモーションを一挙紹介！

### T5R

■ サイズ：17 × 7 ～ 9J、18 × 7.5 ～ 10.5J、19 × 8.5 ～ 10.5J
■ 形状：1 ピース（セミテーパー、ミドルテーパー、ディープテーパー、サイスによってウルトラディープテーパー）
■ ホール数＆ PCD：4H-100、5H-100、5H-114.3
■ カラー：マットグラファイト、アイスホワイト、グローシルバー
■ 価格：4 万 5000 ～ 5 万 9000 円

エモーションブランドの本流ともいえるスポーツホイール。軽さを求めた肉薄な 5 スポークデザインが特徴。キャストながらサイズスポークや裏の算段を見とるのは高い剛性に裏付けされたもの。サーキットで培ったノウハウが遺憾なく発揮されたモデルである。

### CR2P 16&17"

■ サイズ：16 × 5.5 ～ 9J、17 × 6 ～ 10.5J
■ リム形状：16 ＝フルバースリム、17 ＝リバースリム
■ ホール数＆ PCD：4H-100
■ カラー：アッシュドチタン、マットブラック、ホワイト、クリスタルシルバー
■ 価格：16 インチ＝ 4 万 4000 ～ 5 万 4000 円、17 インチ＝ 4 万 9000 ～ 6 万 1000 円

昨年末のスタンスネイションでデビューした 2 ピースホイール。コンケーブしながら広がるツインスポークに加え、4 H PCD 100 のみの設定により、センターをかさくでき、より足長に見せている。5.5J ～ 10.5J というリム設定で K カー～コンパクトまでをカバー。

### CR3P

■ サイズ：20 × 7.5 ～ 15J、21 × 8 ～ 11.5J
■ リム形状：リバース、フルバース
■ PCD. & ホール数：5H-114.3、特殊 P.C.D. 対応可
■ カラー：バーニングシルバー、マットカーボン、ブラック、OP カラーアレンジ
■ 価格：9 万 5500 ～ 12 万 7500 円

2017 スタンスネイションでデビューした CR の 3 ピースモデル。ビアスモデルの人気が高い北米に向けたホイールで、組み付けには溶接を使っていないため、リムの交換は現地でもできる。同じデザインで 1 ～ 3 ピースモデルを用意できるのは、ワークの懐の深さがなせる技。

### M8R

■ サイズ：17 × 7 ～ 9J、18 × 7.5 ～ 10.5J、19 × 8.5 ～ 10.5J、20 × 8.5 ～ 10.5J
■ 形状：1 ピース（セミテーパー、ミドルテーパー、ディープテーパー、サイスによってウルトラディープテーパー）
■ ホール数＆ PCD：4H-100、5H 100、5H-114.3
■ カラー：アッシュドチタン、マットブラック、ホワイト、グリミットブラック、カラリズム対応（20 インチは除く）
■ 価格：4 万 2000 ～ 6 万 7000 円

コンケーブした細身 8 交差メッシュスポークが特徴の 1 ピースホイール。レクサス RC をはじめとしたアッパースポーツを狙った 20 インチが追加でラインナップされた。アッシュドチタンをはじめ、落ち着いたカラーリングにキャップを付属している。

## ワークエモーション家族会議

ワークエモーションといえば、スタンスシーンで装着率ナンバーワンを誇る人気ホイールブランド。もともとはピュアスポーツホイールとしてスタートしたのだが、D1 レースで一気に認知度を高め、多くのレース車両に装着されるようになった。なかでもレースで培ったウルトラコンケーブは、エモーションの代名詞ともなり、市販車をベースとしたスタンスマシンたちの足元を飾ってきた。しかし、そこに安住しないのがワークというホイールメーカー。バリエーションを着実に広げ、これまでワンオフでしかできなかったカラーシステム「カラリズム」を導入。常にシーンの半歩先をリードするメニューを提案してきた。

そんなエモーションの最新ギアがコレ。なかでも注目したのが、1 ピースホイール・CR のマルチピース化だ。「足長で大口径感のある 1 ピースもいいですが、ボディ形状に合わせて自由度の高いマッチングができる 2 ピースはリムのカラーと形状（ステップ / リバース）を選べるのがいい。3 ピースはアメリカでビアスモデル人気に合わせてリリースしたスペシャルモデル。1 ピースモデルを 2 & 3 ピースにすることは通常あり得ないんですが、それをやるのがオモシロイでしょ（ワーク / 吉川サン）。

カラリズムにマルチピース化と、スタンスシーンに新たな話題を提供してくれるワーク。その裏には、"世界に通じるリムのワーク"と呼ばれる、蓄積したノウハウへの自信が見えてくる。